



京都府立医大生が舞鶴を訪問

未来の医療人 あそびあむで実習

9月3日、京都府立医大の学生25人が地域医療実習のために本市を訪問。子育て交流施設あそびあむで実習を行いました。実習に訪れたのは医学科の生徒20人と看護学科の生徒5人で、本市の子育て施策などの説明や施設見学を行ったほか、実際にあそびあむで行われている「あそび」を体験。その後、



楽しく学ぼう救急フェスタ

救急の「Q（クエスチョン）」を解決！

9月8日～14日の救急医療週間の初日に合わせ「救急フェスタ in まいづる」を東消防署・防災センターで開催。約1,000人が会場を訪れました。この日は、クイーンまいづるの3人が一日救急隊長を務め、東・西少年消防クラブの子ども達と心肺蘇生法（PUSH講習）を実施するなど救急PR活動を行いました。また、オープニングには倉梯幼稚園の園児による救急をテーマにした歌と踊りやハーロー・フラ・アカハイ・マリーエのフラダンス、東舞鶴高校書道部のパフォーマンスが行われました。



防災センター内の常設コーナーでは、消防車両の展示や救急グッズ、AEDの体験などのスタンプラリーも行われ、大人も子どもも救急・消防に親しみ命の大切さを学びました。《消防本部》

来館していた子育て中の保護者と懇談し、地域医療の現状やその在り方について意見交換をしました。学生はその後、6日まで舞鶴医療センターを拠点に市内の医療機関や福祉施設などで臨床実習を行ったほか、各種研修会に参加しました。《地域医療課》

全国茶品評会の結果

舞鶴のかぶせ茶が日本一



市長とまちの将来を議論

中学生がまちへの思いを発表

全国の産地から集まった茶の品質を競う「全国茶品評会」が8月27日～30日に愛知県で行われ、

かぶせ茶の部で本市が産地賞（第1位）を獲得しました。また、個人の部でも1・2・4位に入賞するなど、高い品質が評価されました。本市は、平成24年～28年にかぶせ茶の部で5連覇を果たしたものの、自然災害などの影響で昨年一昨年は賞を逃しており、日本一への返り咲きは地域や生産者にとって悲願でした。かぶせ茶とは、新芽が2、3枚



9月1日に「市長と中学生のふるさと舞鶴ミーティング」を赤れんが2号棟で開催しました。市内7中学校から各校1人が参加し、将来の夢や住み続けたいまちなどのテーマでそれぞれの思いを発表しました。まちの次代を担う若い世代が「自分たちでまちを変えていく」という思いを持ってもらうことがねらいです。議論の中では「交通アクセスが良くなれば地元で暮らしながら都会で働ける」「その移動



《学校教育課》

時間を楽しめるのが舞鶴らしい」などさまざまな意見が出ました。参加した生徒からは「思いを伝える良い機会になった」「都会に似せるのではなく舞鶴らしさを生かした施策を実施してほしい」などの感想がありました。

◆個人かぶせ茶の部
◆1位：菱田繁政 ◆2位：菱田美代子 ◆4位：増茂義郎
《農林課》

初開催の軽音コンテストで11バンドが熱演

ミュージックコミッションが市内にコンテストを誘致

近畿・北陸地域の高校などの軽音楽部が競い合う「第一回近畿北陸高等学校軽音楽コンテスト」が8月31日、総合文化会館で初開催されました。大会には京都のほか大阪や兵庫、石川から10校11組のバンドが参加。人気曲のカバーやオリジナル曲などそれぞれ練習を重ねた楽曲を約400人の観客に披露しました。演奏は、連帯、協調、創意の観点を中心に審査され、初代グランプリには大阪市立鶴見商業高校軽音楽部が輝いたほか、市内唯一の出場であった舞鶴高専は市長賞を受賞しました。

本大会は、昨年5月に設立した舞鶴ミュージックコミッション（観光振興課内）の誘致活動で、NPO法人全国学校軽音楽部協会と市が共催で実施。これまで、近畿と北陸が共に競い合うコンテストがなく、両地の接点になる舞鶴で開催が決まったものです。市では、今後もプロ・アマ問わず音楽活動を応援し、音楽を愛する人たちが集うまちづくりに取り組んでいきます。《観光振興課》

